平成 28 年度　第 3 回帯広市社会教育委員会議　議事要旨

1　日　　時　　平成 28 年 11 月 29 日（火）18：00～20：25

2　会　　場　　明治北海道十勝オーバル　2 階　研修室 1･2

3　出席委員　　我妻 公裕、西保 俊太郎、杉本 光瞬、阿部 好恵、中田 由美子、松田 信幸、池田 健一、松本 健春、高倉 美恵子、田中 惠子、久保田 博己、藤崎 博人、廣瀬 有紀、奥村 喜実、佐々木 祥世

（以上 15 名　敬称略）

4　事 務 局　　帯広市教育委員会教育長　嶋﨑 隆則、生涯学習部長 神田 亜紀志、スポーツ振興室長 敦賀 光裕、生涯学習部企画調整 森川 芳浩、図書館長 前原 匡宏、生涯学習課長 樂山 勝則、文化課長 増子 和則、百年記念館長 北沢 実、動物園副園長 森田 昇吾、生涯学習課係長 島田 猛、生涯学習課主任補 黒澤 英里子、生涯学習課係員 岩﨑 真実

（以上 12 名）

5　会議次第

（１）開会

（２）帯広市教育委員会教育長　挨拶

（３）明治北海道十勝オーバル　施設見学

（４）帯広市社会教育委員長 挨拶

（５）議事

（６）閉会

6　議事要旨

（１）会議等出席報告について

・会議名：第５６回北海道社会教育研究大会（上川大会）

・期　日：平成２８年１０月１３日（木）～１４日（金）

・場　所：富良野市　富良野文化会館

・出席者：松本 委員長、池田 委員、（事務局：岩﨑 係員）

池田 委員より参加報告。

【質問・意見等】

なし。

（２）帯広市における新教育委員会体制について

事務局より説明。

【質問・意見等】

なし。

（３）総合教育会議について

事務局より説明。

【質問・意見等】

なし。

（４）社会教育施設の指定管理者の指定について

事務局より説明。

【質問・意見等】

〇委員

他の施設は指定管理期間が平成２９年４月１日から平成３４年３月３１日となっているが、帯広市総合体育館については平成２９年４月１日から平成３２年３月３１日までの３年間となっているのは、新総合体育館が開設されるためか。基本的には指定管理期間は５年ということなのか。

●スポーツ振興室長

帯広市総合体育館の指定管理期間が３年となっているのは、帯広市新総合体育館が開設されるためである。

帯広市において、指定管理期間は原則５年としている。ただし新たに指定管理者制度を導入する施設は基本的に３年としているほか、施設の特徴によって期間は前後することもあり得る。

指定管理者の指定については、帯広の森運動施設と帯広市総合体育館で１つのグループ、屋外施設を１つのグループとしており、今回は帯広市民文化ホールを含め、３つの枠について指定管理者を指定している。

（５）帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて

事務局より説明。

【質問・意見等】

なし。

（６）社会教育委員会議の研究協議テーマについて

① 研究協議テーマの報告方法について確認

事務局より説明。委員長に報告書を作成いただきたい旨を説明。

【質問・意見等】

なし。承認。

② 第４回会議テーマ「少子・超高齢化・人口減少社会における社会教育への期待」について

【質問・意見等】

以下のとおり。

1　少子化や超高齢化がますます進行

○委員

行政として少子・高齢化に対する取組みを示したうえで、課題についての意見を問うべき。

地域の高齢者の方々には、ボランティア等の活動で大変お世話になっているが、その高齢化が進んでおり、活動への参加が負担になりつつあるようだ。また、現在は６０歳代以降も働いている方もおり、退職後は自分のために時間を使いたい高齢者が増えているように感じている。これらのことから、ボランティア等への参加不足が懸念される。

●生涯学習課長

帯広市としては、「帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、それを基本的なプランとして人口対策に取組んでいるところである。

○委員

市として、実は様々な取組みを行っている。しかし、その情報が市民に十分に伝わっていないことがある。これが行政の課題であると思う。

○委員

私が参加している町内会には、お手本にしたいほど元気に暮らしている高齢者がいる。この方のように、積極的に外へ出て人と関わっていくことが重要だと思うが、なかなか外に踏み出せない高齢者が多い。

○委員

少子化や核家族化によって、人間関係の希薄化や地域の伝統・文化の担い手不足が懸念される。そのため、文化の継承に影響が及び、日本人らしさが失われていってしまうのではないだろうか。

また、地域活動の参加に踏み出せず、家からなかなか出られない高齢者が多いと感じている。自分が参加している町内会では、「のどの会」と称し高齢者が気軽に集まってコミュニケーションを図れる場を作った。この集会では多くの高齢者が集まり、楽しい時間を過ごしている。このように、高齢者自身も何か行動を起こしていくことや、それができる人材を発掘していくことが重要になっていくと思う。

こうしたこともあり、連合町内会では、平成２９年度に高齢化のことについて議論していく予定でいる。

○委員

少子・高齢化への対応を考えるときは、その世代が何を求めているのか、何ができて何ができないのかを把握することで、具体的な取組みにつなげていけると考える。様々な世代の市民の声を拾い上げることが重要ではないだろうか。

2　潜在的な労働力（子育て世代の主婦やアクティブシニア等）の社会進出

○委員

子どもの健全な成長には、様々な体験をすることが必要である。私は子ども居場所づくり事業や出前講座にボランティアとして参加しているが、そのなかで、高齢者の関わりが少なく、地域の高齢者を学校で取り込むことが少ないと感じている。豊富な知識や経験を持つ高齢者のように、地域には素晴らしい人材がいる。その人材をもっと発掘・活用できるような取組みが必要であると感じている。

○委員

高齢者とひとくくりにされるが、高齢であっても元気な方は元気である。そういった方々が、地域住民や学校などに、持っている知識を伝え教えていけたら良いと思う。そのために、元気なお年寄りを作ることが重要である。日々の生活を豊かにし、元気に暮らしていくために働きかけていくことが、社会教育の役割の一つであると考える。「人づくりはまちづくり」であり、それは社会教育に期待される役割である。

3　家族力やコミュニティ力のさらなる低下

○委員

少子化と核家族化の進行により、家庭の教育力の低下が懸念されているが、社会教育からの支援ができないだろうか。

○委員

高齢者と子どもの交流は非常に大切である。様々な世代と交流しながら育った子どもは情緒が豊かになると考える。そこで、共働き世帯や核家族世帯が増えているなかで、高齢者施設等を利用している高齢者が子どもの帰宅時間に自宅に戻れたら、交流をしながら、子どもの見守りもできると考える。

○委員

自分が子どもの頃に参加していた町内会は、子どもから大人まで多くの住民が集まっており、町内会の催しに参加するだけで楽しかった。しかし、現在では若い世代の参加が非常に少なくなっている。それは、若い世代が「町内会は高齢者の集まり」というイメージを持っており、町内会が自分の居場所であると認識していないことが要因の一つであると考える。

町内会は様々な世代の方と交流できる社会教育の場であり、特に高齢の方は人生の知恵をたくさんお持ちであるため、学ぶことが多くある。もっと参加しやすく魅力が伝わるような周知が必要であると考える。

○委員

共働き世帯が増えているので、放課後一人になる子どもが多く、親が帰ってくる時間まで公園でゲームをする子もいる。また、働いている親は参観日等の学校行事にも参加できず、親同士のつながりも希薄化している。さらに、地域の住民同士でも交流がないため、子どもを預けられない上に、周囲の大人も、一人でいる子どもがどこの家庭の子どもであるのか特定できない。

私の町内会では、班内で焼肉をするなど交流を図っている。お互いに助け合える関係を築くために必要なことであると考えるが、より多くの住民に参加してもらえるように考えていかなければならないと思う。

○委員

今年の夏に大きな台風（台風１０号）に見舞われたが、防災や避難等の場面で、地域住民同士がつながることの重要性と必要性を強く感じた。防災という観点から、今こそ地域住民のつながりを広げていかなければならない。これまでの慣習化したコミュニティではなく、思いやりを大切にするコミュニティづくりをしていく仕掛けができないだろうか。それを社会教育委員として考えていきたい。

4　人口減少社会によるまちの活力低下

○委員

本日、明治北海道十勝オーバルの見学をしたが、フィットネスルームを高齢の方も多く利用していることに驚いた。子ども達が所属する少年団があるように、高齢の方々を対象としたクラブがあれば良いと思う。そこから、高齢者をはじめとする市民の社会教育への参加につながり、地域の活性化につながると考える。

○委員

本日初めて明治北海道十勝オーバルを訪れたが、こんなにたくさんの子ども達や市民が集まっていることに驚いた（会議当日、スピードスケートの練習とフットサルコートの開放が行われていた）。

少年団活動を見ていると、多くの子ども達が集まり、それぞれの保護者も同伴している。そこで、少年団としてボランティア活動等の社会活動に参加する機会を設けてみてはどうかと考える。

○委員

人口減少や少子・高齢化の進行により、社会教育に求められる内容も変化していくと考えられる。

5　その他

○委員

社会情勢がどのように変化しようと、社会教育がなくなることはない。この会議の場では、「社会情勢の変化やその影響」ではなく、「社会教育に何ができるか。何を期待されていて、何をするべきか」を議論していきたい。

○委員

世代によって様々なニーズがあり、これらを汲み取り、対応していくことが社会教育に期待されることではないだろうか。

○委員

議事のなかで、総合教育会議について報告があったとおり、学校教育と社会教育が連携した取組みは、既にたくさん実施されている。しかし、市民はそういった実態を十分に把握できていないため、情報提供について工夫が求められる。

（7）その他

事務局より帯広市社会教育委員への行政等の情報提供方法について説明。情報誌を発行することとしており、発行ごとに委員１名より交代でコラムを寄稿していただくことを提案。

【質問・意見等】

○委員

委員名の五十音順に、コラムを寄稿するということでよろしいか。

（意見なし。寄稿する順番は、我妻 委員を１番目とし、２番目以降五十音順とすることとなった。）

以上